

**Citation:** Ho MJ, Bellusci A, Wright JM. Blood pressure lowering efficacy of coenzyme Q10 for primary hypertension. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2009, Issue 4. Art. No.: CD007435. DOI: 10.1002/14651858.CD007435.pub2.

**CRG名:** Hypertension

### [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 11 August 2009

**Clib issue No.;** N/U: 2009 issue 4, New

**背景:** 複数の研究から、補酵素Q10欠乏と心血管疾患との関連性が示されている。高血圧は、心臓発作および脳卒中などの非致死的小および致死的な心血管系エンドポイントに対する代用マーカーとして頻りに評価される。臨床試験から、補酵素Q10補給は血圧を効果的に低下させることが示唆されている。

**目的:** 原発性高血圧における補酵素Q10の降圧効果を明らかにする。

**検索戦略:** 言語にかかわらず関連性のある臨床試験について、Cochrane Central Register of Controlled Trials(2009年第2号)、MEDLINE(1966年~2008年5月)、EMBASE(1982年~2008年5月)、およびCINAHL(1970年~2008年5月)ならびに論文の参考文献リストを検索した。

**選択基準:** 原発性高血圧の患者を対象に、3週間以上にわたって補酵素Q10の降圧効果を評価していた二重盲検ランダム化プラセボ対照並行群間試験またはクロスオーバー試験。

**データ収集と分析:** 第1のレビューアが独立にバイアス・リスクを評価し、データを抽出した。第2のレビューアがデータの抽出を検証した。

**主な結果:** 計96例の参加者を対象とした3件の臨床試験が、血圧に対する補酵素Q10効果をプラセボと比較評価していた。収縮期血圧(SBP) $>140$ mmHgまたは拡張期血圧(DBP) $>90$ mmHgの被験者を対象に補酵素Q10で治療した結果、SBPは平均11mmHg(95%CI 8~14)、DBPは平均7mmHg(95%CI 5~8)低下していた。

**レビューアの結論:** 含まれた研究のなかには信頼性に欠くことも考えられるため、原発性高血圧の長期管理に際しては補酵素Q10が血圧を低下させるかどうかは不明である。

(監訳 相原守夫)

翻訳公開日: 10年2月10日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。